

インド・ブータン農産物物流視察④

コールドチェーンの地図をゼロから描く



西ベンガル州北部で 新たな定温倉庫建設へ

川崎陸送ではコルカタ市郊外のシンゲールに「シヨールーム」として建設した太陽光発電・蓄電小型定温倉庫を皮切りに、西ベンガル州内での同様な倉庫の新設を計画している。ナカシパラ、北部のシリグリ、デュープグリ、ファンシディワ、北部の空港が立地するバグドグラが有力な候補地だ。これらのエリアで定温倉庫を建設し、隣国ブータン王国へ新鮮な野菜の輸出や、バグドグラ空港を活用した他国への輸出の可能性も探る。ゼロからのスタートとなるコールドチェーン構築への挑戦が始まろうとしている。

新倉庫予定地のひとつがナカシパラ。隣はサッカー場で、視察に来た日本人が珍しいのか子供たちが集まってくるそんな田舎町だ。この地には州政府が保有する、使用されていない小型倉庫が放置されており、4℃まで冷やせるという。川崎陸送ではまずこの倉庫を定温倉庫としてリノベーションし、隣接する土地に花きの仕分け場・倉庫、さらには乳製品用の倉庫を増設する構想だ。また、サッカー場への太陽光発電による照明の設置や、電動バイクなどで野菜などを運んできた農民が充電できるよう、「チャージングステーション」の設置も視野に入れている。倉庫予定地の近所には花き市

熱心に聞き入っていた。

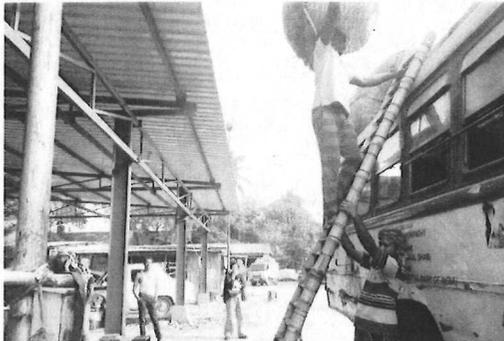
バグドグラ空港から 他国への輸出も

場があるが、蒸れるため輸送中は花きにカバーをかけることができず、雨の日には1個60kgのバスケットのうち10kg程度がだめになってしまう。なお、市場からの花きの出荷では、バスによる「貨客混載」が行われているが、積み付け方法は前近代的。この仕分け場と保管拠点、新設する定温倉庫に移転することを提案している。定温倉庫で販売量が増えることを説明すると、農民の一人は「もっと稼いだら子供の教育に使いたい」と話していた。

バグドグラ空港至近の使用されてこない「PERISHABLE CARGO CENTER」と書かれた倉庫も定温倉庫の候補地だ。もともと航空貨物用の拠点として建設されたようだが、築13年程が経過しているため、空調設備などは新しいものに取り換え、煙蒸施設を導入する方針。バグドグラ空港を活用した農産物の空輸の潜在需要を掘り起こしたい考えで、デリーやタイ向けに高付加価値の農産物の取り扱いを想定している。

近くにある牛乳の集荷センターでは「牛の頭数を増やして収入が上がっても、牛乳を保管する倉庫がないため、価格が下がってしまう」というジレンマを抱えている。コテージチーズに加工して1ヵ月程度保管できれば、マーケットの価格は崩れないという。川崎陸送では新倉庫の活用とともに、統一した集荷容器の活用・洗浄も提案し、センターを利用する酪農家たちは

このほか、西ベンガル州最大の農業市場であるデュープグリ市場などで放置されている倉庫も定温倉庫としての利用を検討。隣国ブータンからの国境を越えた買い付けにも便利な立地で、バグドグラ空港経由で輸出する可能性もある。



花きの市場からの出荷で“貨客混載”も



バグドグラ空港至近の定温倉庫予定地